



平成28年7月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

今年のアワビ稚貝の量は？



解説：アワビは秋から冬が産卵期で、海中に放出された卵は受精後、孵化し浮遊生活を送る。孵化後4～7日後に石や岩の表面に付着して、底生生活に移る。底生生活に移った稚貝の量を春から初夏に調べている。

伊豆半島沿岸では、近年アワビの漁獲量が減少傾向にあります。放流したアワビ稚貝はある程度漁獲されていることから、天然の稚貝の発生や生育に問題があると考えられます。そこで、4年前からアワビ漁場の一定面積に加入してくる稚貝の量を潜水調査で把握しています。

これまでに5年分のデータが集まった結果、稚貝の量の年変動は大きいことがわかりました。多い年と少ない年では500倍の差がありました。今年は、比較的稚貝の量が多く、5年間のうち2位に位置しています。この多い稚貝を漁獲量回復につなげる方策と稚貝量の変動要因の解明が今後の課題です。

水産祭りで さざえちやうだー 販売

伊豆漁協は6月18日に下田魚市場で開催された水産祭りで、いとう漁協と開発している「伊豆さざえちやうだー」の販売を行ないました。当日は晴れて暑い日となり、温かいスープの販売は難しいかと思われましたが、評判は上々で用意した約100食を無事完売しました。「伊豆さざえちやうだー」の他に須崎日戻りキンメの即売、漁協青壮年部連合会による疑似釣りゲーム、ところてんの試食等が行なわれ大変な盛り上がりを見せました。



乾燥ナマコづくり講習会

6月3日、伊豆漁協南伊豆支所にて、伊豆漁協職員を対象に、乾燥ナマコの製造方法についての講習会を実施しました。講習会では、製造方法の説明および製造に際しての課題等について協議すると共に、ナマコの内臓を除去する“脱腸処理”を体験してもらいました。会場では伊豆のナマコを乾燥ナマコに加工し単価を上げる取り組みを進めており、本講習会は、乾燥ナマコ製造を現場へ普及する第一歩となりました。



7月の予定 ●6日に下田市でキンメダイの資源管理に関する漁業者検討会が開かれます。 ●キンメダイ種苗生産研究のために親魚捕獲、船上受精を実施します。 ●マダイの中間育成が終了し、伊豆各地で放流が行われます。 ●22日に下田市で開催される「海の日」記念事業の一環として、会場職員が「伊豆の海の生物」について講演します。 ●中学生の職場体験を当场で実施します。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835
アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>
当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。